

2018 年度日本建築学会大会（東北）
構造部門（基礎構造）
パネルディスカッション資料

杭基礎に性能評価型耐震設計法を適用する場合の 問題点と将来展望

基調講演「杭の耐震設計における静的評価と動的評価のギャップと融合」

2018 年 9 月

日本建築学会 構造委員会
基礎構造運営委員会

杭基礎に性能評価型耐震設計法を適用する場合の問題点と将来展望

9月5日(水) 9:15~12:45 川内萩ホール

司会 三町 直志 (日本設計)
副司会 鈴木 康嗣 (鹿島建設)
記録 下村 修一 (日本大学)

基調講演

「杭の耐震設計における静的評価と動的評価のギャップと融合」 土方勝一郎 (芝浦工業大学)
9:15-10:00

主旨説明 小林勝已 (フジタ) 10:00-10:05

主題解説 (各20分)

1. 新基礎指針における大地震に対する杭の耐震設計法の概要 田村修次 (東京工業大学)
10:05-10:25

2. 地震被害および既往の実験から見た杭の限界状態 金子 治 (広島工業大学)
10:25-11:45

3. 近年の実大規模実験に基づくコンクリート系杭の限界状態 河野 進 (東京工業大学)
10:45-11:05

休憩 11:05-11:15

4. 局部座屈及び液状化地盤での動座屈による鋼管杭の限界状態 木村祥裕 (東北大学)
11:15-11:35

5. 地震後の継続使用性を確保した杭基礎構造システムの設計の考え方 向井智久 (建築研究所)
11:35-11:55

討論 11:55-12:40

まとめ 時松孝次 (東京ソイルリサーチ) 12:40-12:45

目次

基調講演資料

- ・杭の耐震設計における静的評価と動的評価のギャップと融合 土方勝一郎（芝浦工業大学）・・・1

パネルディスカッション資料

- ・主旨説明 小林勝已（フジタ）・・・15
- ・主題解説
- 1. 新基礎指針における大地震に対する杭の耐震設計法の概要 田村修次（東京工業大学）・・・17
- 2. 地震被害および既往の実験から見た杭の限界状態 金子 治（広島工業大学）・・・25
- 3. 近年の実大規模実験に基づくコンクリート系杭の限界状態 河野 進（東京工業大学）・・・33
- 4. 局部座屈及び液状化地盤での動座屈による鋼管杭の限界状態 木村祥裕（東北大学）・・・45
- 5. 地震後の継続使用性を確保した杭基礎構造システムの設計の考え方 向井智久（建築研究所）・・・59